

にほんご よむよむ文庫 レベル 2

いっ きゅう
一休さん
に
— その二 —

再話 (さいわ) : 松田 緑 (まつだ みどり)・山崎 俱子 (やまざき ともこ)
挿絵 (さしえ) : 福田 紀子 (ふくだ のりこ)
監修 (かんしゅう): NPO 多言語多読 (たげんご たどく)
(旧 NPO 法人日本語多読研究会)



一休和尚

(一三九四〜一四八一年)



日本人は「一休さんの話」が大好きです。「一休さんの話」は、江戸時代（一六〇八〜

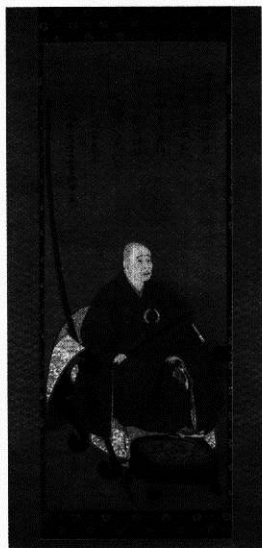
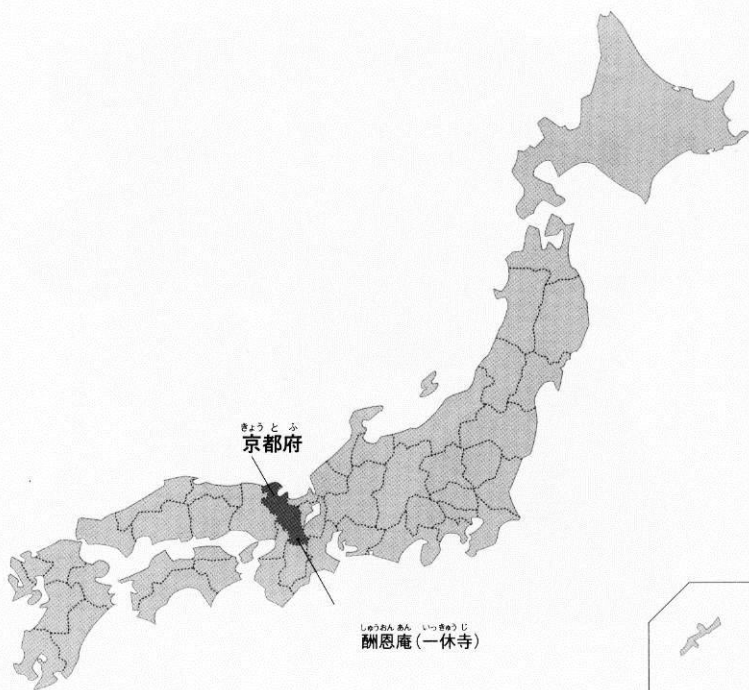
一八六八年）の頃から人気がありました。この「一休さん」は、本当にいたのでしょうか。

「一休」というお坊さんは本当にいました。京都で生まれて、八十八歳で死にました。京都府の南にある、京田辺市の寺「酬恩庵」に墓があります。天皇の子どもとして生まれて、六歳の時に安国寺に入って、お坊さんになる勉強をしました。若い時から詩や字を書くことが上手でした。ちよつと変わった人で、おもしろいことをたくさんしました。

「一休さんの話」はたくさんあります。でも、その中には、一休さんがしたことではない話も入っています。日本のあちこちで頭のいいお坊さんがしたおもしろいことが、たくさん集まって、

「一休さんの話」になったのです。





いっせゆう おしろう
一休和尚 (酬恩庵所蔵)

いっせゆう じ しゅうおん 庵ていきょう
一休寺 (酬恩庵提供)



ろうそく

一休さんいっしきゅうは、子どもこのとき、安国寺あんこくじという

お寺てらで勉強べんきょうしていました。

一休さんいっしきゅうは、毎日まいにち、朝あさと夜よる、本堂ほんどうへ行いきます。

本堂ほんどうの仏様ほとけさまの前まえには、花はなや果物くだものがあります。

ろうそくろうそくもあります。

一休さんいっしきゅうは、おしょうさんおしょうさんやお坊さんぼうさんたち

と一緒いっしょに、そこでお経きょうをよみます。

寺てらで一番上いちばんうえのお坊さんぼうさんが、「おしょうさん」

です。若いお坊さんわかぼうさんたちの先生せんせいです。

